



主な内容

- 特 集—— 附属病院移転事業の進捗状況について
トピックス—— 第43回盛岡地区病院対抗球技大会が行われました
フリーページ—— すこやかスポット薬学講座No.1
「腸管出血性大腸菌食中毒」

表紙写真：虹の始まり

(平成29年9月12日、八幡平付近で脳神経外科学講座助教の西川泰正先生が撮影。)
(NHKのおぼんですいわて「はっぴーニュース」でも紹介されました。)

附属病院移転事業の進捗状況について

企画部 総合移転計画事務室

平成 31 年 9 月の開院に向け、現在計画を進めている矢巾キャンパスへの附属病院移転事業について、今春、いよいよ矢巾新病院の新築工事が本格着工しました。また、新病院の周辺施設についても、配置計画等が決定しましたので、事業の進捗状況についてご紹介いたします。

■ 矢巾新病院の外観イメージについて

今回、新たに新病院正面に大学のイメージカラーである赤褐色の帯を一本加え、イメージカラーを強調するとともに、大学病院らしい、より重厚感のある外観イメージに変更しました。



■ 周辺施設の設置計画について

矢巾新病院では、病院を利用される多くの方々の利便性向上を目的として、病院敷地内に以下の施設を設置する計画で検討を進めています。

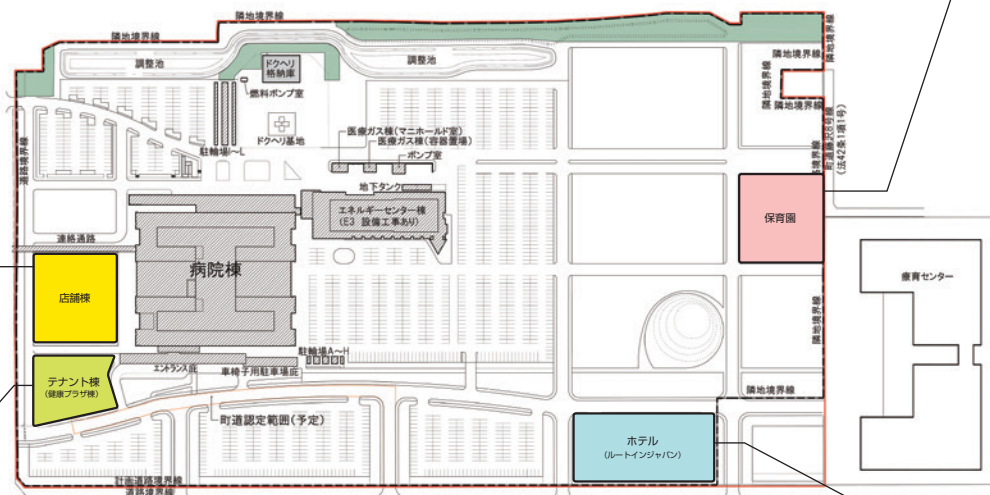
○店舗棟

コンビニやカフェ、レストラン等で構成される建物です。気軽に利用できるフードコート形式や、各種店舗が集まるショッピングモールのようなイメージで計画しています。



○保育園

スタッフが働きやすい環境づくりのため敷地内に保育園を設置します。夜間休日保育（事前予約制）や病児・病後児保育も行う計画です。



○テナント棟（健康プラザ棟）

院外薬局や健康増進施設、テナント等で構成される、患者さんへのサービス向上及び新病院の機能を補完する施設として計画しています。



○ホテル（ルートインジャパン（株）、客室数：300 室規模）

患者さんやそのご家族、病院を利用される多くの方の利便性向上を目的として、敷地内にホテルを設置します。

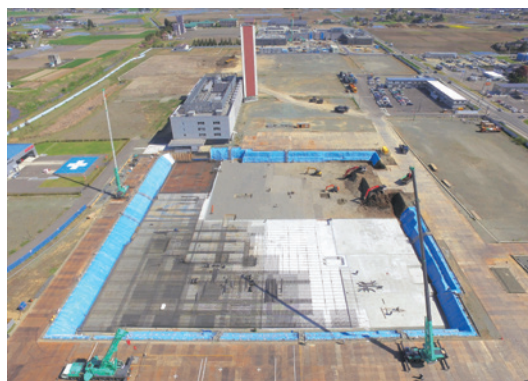


■ 病院新築工事の進捗状況について

今回矢巾新病院では、基礎部分に杭は設けず、縦横 100 メートル四方、全高約 2500mm (≒ 400mm × 6 層) からなる基礎コンクリートを設置し、建物全体を支える構造としています。8 月には基礎コンクリート工事が完了し、9 月からは免震装置の設置と鉄骨建方工事に入っています。



平成29年4月状況



平成29年5月状況



平成29年7月状況



平成29年10月状況



基礎コンクリート打設状況



基礎コンクリート打ち継ぎ



免震装置設置



鉄骨建方工事

■ 今後のスケジュールについて

平成 31 年 9 月の新病院開院と合わせ、病院附属施設及びその他施設についても同時期のオープン予定で計画を進めています。

[illegible]

お知らせ

◆新病院モデルルームの展示について

矢巾新病院に設置される4床病室、1床個室、ナースステーション等のモデルルームを矢巾キャンパス東研究棟2階に設置しました。公開日程については、改めて関係部署へご案内いたします。



4床病室



1 床個室

■ おわりに

平成 31 年 9 月の矢巾新病院及び内丸メディカルセンター（仮称）開院に向け、現在、各種会議・WG での検討や、各部署との詳細図面・機器備品等の確認作業が行われております。通常業務もある中、打ち合わせに出席いただいている先生方やスタッフの皆さまに御礼申し上げるとともに、いよいよ開院まで残すところ 2 年となり、今後はハードの面だけではなく、各種運用体制に係るソフト面の具体的な検討及び打ち合わせが必要となってまいります。引き続き、教職員・関係者の皆さまからのご支援とご協力をお願いいたします。

岩手医科大学募金状況報告

【創立120周年記念事業募金】

岩手医科大学創立120周年記念事業募金に対し、特段のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼申し上げます。誠にありがとうございました。

今後とも格別なるご支援・ご協力を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は第18回目の御芳名紹介です。(平成29年7月1日～平成29年8月31日)

※御芳名及び寄付金額は、広報を希望されない方は掲載しておりません。

●法人・団体等（3件）

<20,000,000> 株式会社 こずかたサービス（岩手県盛岡市）

<100,000> 岩手医科大学 歯学部 秋田県同窓会 秋盛会（秋田県秋田市）

<御芳名のみ掲載> 医療法人イシイ 石井内科消化器科医院（岩手県盛岡市）

（順不同、敬称略）

●個人（5件）

<10,000>

大澤 浩（医31）

<御芳名のみ掲載>

祖父江 憲治（役員）

伊藤 智範（教職員）

日下 純男（医14）

城 茂治（教職員）

（順不同、敬称略）

区 分	申込件数	寄付金額（円）
圭 陵 会	563	408,205,089
在 学 生 ご 父 母	384	207,780,000
役員・名誉教授	64	84,310,000
教 職 員	137	21,327,000
一 般	58	28,010,000
法 人 ・ 団 体	175	636,017,000
合 計	1,381	1,385,649,089

（平成29年8月31日現在）

省エネ推進委員会だより

「夏季の節電活動」の結果報告について

職員の皆様方におかれましては、日頃より省エネ活動にご協力をいただきまして誠にありがとうございます。今夏も「夏季の節電活動」を実践致しましたが、期間内における電力使用量の集計が纏まりましたので結果についてお知らせ致します。

「夏季の節電活動」概要

【実践期間】

平成29年6月1日～8月31日まで（クールビズは9月30日まで）

【節電目標】

実践期間内の消費電力量（合計）の前年度比1%の削減

【実践項目】

冷房温度28℃設定（病棟・診察室等は弱冷房の励行）、不要照明の消灯、待機電力の削減、クールビズ活動

まとめと考察

今夏は、PET・リニアックセンターが前年度電力使用量1%削減の目標を達成しました。全施設の傾向としましては、例年と比較して6月と8月の外気温が低く電力使用量は減少しましたが、7月は外気温が高く電力使用量は増加しました。

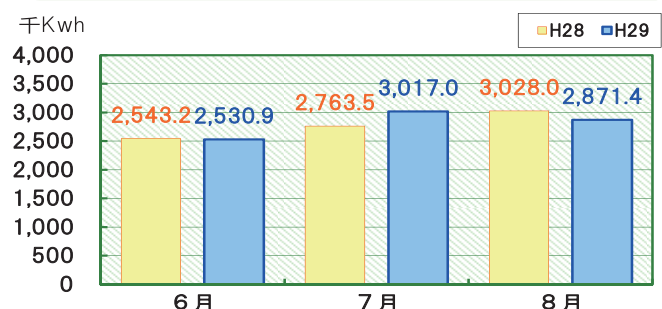
この結果、節電活動期間全体での電力使用量は、若干の増加となり、目標である前年度比1%の削減は達成出来ませんでした。

電力使用量は、外気温により大きく左右されますが、空調機の温度・時間設定の工夫や不要照明の消灯等、まずは手軽な事から取り組みを行い、引き続き節電活動にご協力をお願い致します。

施設別電力使用量集計（単位：千Kwh）

施設名	期間の合計	（前年度比）
内 丸	5,415.1	(+0.7%)
矢 巾	2,633.9	(+2.1%)
本 町	57.1	(+1.3%)
花 巻	165.3	(+2.6%)
P E T	129.9	(-7.5%)
医療専	18.0	(+4.1%)
施設合計	8,419.3	(+1.0%)

電力使用量の推移（月毎の施設合計量）



第43回盛岡地区病院対抗球技大会 が開催されました

9月10日（日）、盛岡地区21病院による第43回盛岡地区病院対抗球技大会が開催され、本学はバレーボール、ソフトボール、卓球の3種目に参加しました。

本学チームは昨年3種目すべて優勝という輝かしい成績を収めており、今年も活躍が期待される中、バレーボール、ソフトボールの2種目で優勝しました。

会場には、多数の教職員が応援に駆けつけ、熱戦を繰り広げる選手たちに声援を送っていました。



バレーボールチーム



ソフトボールチーム

感染対策講習会が行われました

感染対策講習会が、9月12日（火）、9月20日（水）の2日間にわたり歯学部4階講堂で行われ、総勢265名の職員が参加しました。



講習会では、国立国際医療研究センター病院 AMR臨床リファレンスセンター 情報・教育支援室長の具芳明先生を講師に迎えて「感染症から未来を守る～今求められる薬剤耐性菌対策～」と題した講演が行われました。

参加者は、薬剤耐性菌が生まれる原因や抗菌薬の適正使用について、そして「予防は治療にまさる」ということを学び理解を深めました。

看護学部と薬学部の入試対策 セミナーが行われました

9月16日（土）、矢巾キャンパスで看護学部入試対策セミナーが行われました。

初めての試みにも関わらず、本学HPや告知ポスターで興味をもたれた多くの学生が参加し、予備校講師による昨年度の入試問題解説や、模擬面接、実習室見学、個別相談などが行われました。

また、10月14日（土）には薬学部入試対策セミナーが行われ、参加した学生たちは真剣な面持ちで講師や教員の話に耳を傾け、来るべき入試に備えている様子でした。



オリエンテーション（看護学部）



模擬面接（薬学部）

全学教育推進機構SD講習会が行われました

9月19日（火）、創立60周年記念館9階講義室（矢巾会場はテレビ会議で中継）において、事務局職員対象の全学教育推進機構SD講習会が行われました。

講習会では、祖父江学長を講師に迎えて、大学運営方針と大学改革について「本学改革の現状と今後の方向性」と題した講演が行われました。



この講習会は、2014年の学校教育法改正により、学長のリーダーシップの下で、大学の強みや特色を生かしていけるようなガバナンス改革が重要であることが示され、さらに、2017年の大学設置基準改正において、同ガバナンス改革を推し進めるためのSDが義務化されたことにより、学長を支える事務局・職員の資質向上を目的に開催したものです。

今回の講習会により、本学改革の現状を理解し、今後目指すべき方向性を祖父江学長とともに共有することで、本学のガバナンス改革がより一層促進されることが期待されます。

また、9月29日（金）には、矢巾キャンパス本部棟4階大会議室（内丸会場はテレビ会議で中継）において、岩手大学教育推進機構准教授の江本理恵先生を講師に迎え、「内部質保証システムのための自己点検・評価と教学マネジメントについて」と題した講習会が行われました。



2018年度から機関別認証評価の第3サイクルが始まり、内部質保証が重点評価項目とされています。今回の講習会は、次期機関別認証評価の受審に向けて、内部質保証のために必要な教育の自己点検・評価と教学マネジメントについての理解を深めることを目的に開催したものです。

江本先生には、岩手大学の取り組み事例を参考に分かりやすく講演して頂き、本学における内部質保証システムの構築に向けて有意義な講習となりました。

※内部質保証…PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育・学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明・証明していく学内の恒常的・継続的なプロセス（大学基準協会『大学評価ハンドブック』より）

医療専門学校歯科衛生学科のネームプレート交付式が行われました

10月2日（月）、歯学部4階講堂において、平成29年度歯科衛生学科ネームプレート交付式が行われました。ネームプレート交付式は、これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新たにするものです。

式では、実習着に身を包んだ学生39名の呼名に続き、小豆嶋校長から一人ひとりに実習用のネームプレートが手渡されました。厳かな雰囲気の中、学生を代表して上舘志保さんが「患者さんがどのような医療を私たちに望んでいるのか、歯科医療従事者としての歯科衛生士の役割と責任を実習の中で学んでまいります」と決意を述べ、歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



医療安全対策講習会が行われました

医療安全対策講習会が、10月3日（火）から11回（録画画像による開催を含む）にわたって歯学部4階講堂で行われ、総勢1,282名の職員が参加しました。

講習会では、神経精神科学講座教授の大塚耕太郎先生を講師に迎え「院内自殺予防とスタッフケアについて」と題した講演が行われました。

参加者は、院内自殺の予防には病院全体での総合的な取り組みが必要であること、また、当事者となったスタッフのケアやサポート体制の重要性を学び、今後の取り組みについて理解を深めました。



新任教授の紹介

平成29年9月1日就任

口腔保健育成学講座小児歯科学・障害者歯科学分野

森川 和政 (もりかわ かずまさ)

昭和45年4月13日生
愛知県名古屋市出身



研究テーマ

- ・小児歯科医学教育（ロールプレイ、シミュレーション）、口唇閉鎖力と舌圧、歯の萌出

主な著書論文

- ・口唇閉鎖力と口腔機能の関連の検討
(小児歯科学雑誌 55(1), 1-10, 2017)
- ・小児歯科シミュレーション課題作成とビデオ撮影を取り入れたロールプレイの評価
(小児歯科学雑誌 53(4), 478-486, 2015)
- ・小児における口唇閉鎖力と舌圧に関連する臨床研究
(小児歯科学雑誌 53(1), 60-68, 2015)

趣味

キャンプ

教職員への自己PR

これまで九州歯科大学口腔機能発達学分野にて教育、臨床、研究の研鑽を積んでまいりました。今後もこれまでの経験を活かし、今まで以上に教育と学生に対する情熱を持って学生教育・歯科医師国家試験対策に貢献できるよう精進してまいります。また、小児口腔領域の正常な発育をはかり、より健全な総合咀嚼器官を育てていくと共に小児歯科・障害者歯科分野の診療に貢献できるよう精進してまいります。教職員の皆様方のお力添えならびにご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い申し上げます。

経歴

平成16年	九州歯科大学歯学部歯学科卒業
平成20年	九州歯科大学大学院歯学研究科口腔機能発達学分野専攻修了
平成20年	九州歯科大学口腔機能発達学分野 助教
平成25年	九州歯科大学口腔機能発達学分野 病院講師
平成29年9月	現職

平成29年9月1日就任

病理学講座病態解析学分野

入江 太郎 (いりえ たらう)

昭和43年1月30日生
新潟県新潟市出身



研究テーマ

- ・腫瘍分子マーカー探索、唾液腺腫瘍、レーザーマイクロダイセクション法の外科病理学への応用

主な著書論文

- ・造血性プレB細胞性白血病転写因子関連蛋白は口腔扁平上皮癌の組織発生に関与する
(J Oral Pathol Med, 2015; 44: 115-125.)
- ・Angiopoietin-like 4は口腔扁平上皮癌の転移能を制御する
(J Oral Pathol Med, 2015; 44: 126-133.)
- ・亜鉛トランスポーター ZIP10はB細胞発生段階においてアポトーシス制御に重要な役割を果たす
(Proc Natl Acad Sci USA, 2014; 111: 11780-11785.)

趣味

スキー、スポーツ観戦、音楽鑑賞

教職員への自己PR

これまで昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門で、教育、研究、診断の研鑽を積んで参りました。病理学は研究面ではほぼ全ての生命科学分野と関係し得る学問分野と考えております。これまでの様々な分野の方々と共同研究を進めて参りました経験を基に、教育、研究および診断各方面においても本学のさらなる発展に貢献できるよう専心努力して参りたいと思っております。皆様方のご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

経歴

平成4年	新潟大学歯学部卒業
平成4年	新潟大学大学院歯学研究科入学
平成8年	同大学院修了
平成8年	大宮赤十字病院病理部 医員
平成11年	昭和大学歯学部口腔病理学教室 助手
平成13年	同 講師
平成29年	昭和大学歯学部口腔病態診断科学講座口腔病理学部門 准教授
平成29年9月	現職

大学報原稿募集

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活潑な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、サークル紹介、学報への感想など、幅広くお受けします。(表紙写真も募集しています)

また、特集してほしいテーマや、各コーナー(「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など)への掲載依頼などもお待ちしております。事務局までご連絡ください。

連絡先

大学報事務局(企画部企画調整課)
内線 7022
kikaku@j.iwate-med.ac.jp

シリーズ 職場めぐり

No.116

眼科外来

眼科外来は、看護師7名・看護補助1名・視能訓練士8名・クラーク5名のスタッフで構成されています。1日の受診患者数は、約180名前後と予約患者も多く、診察の進行状況や待ち時間のご案内などを心掛けています。そして、視力障害のある患者さんが安全に診察を受けられるよう患者さんの手を取り、傍で声を掛け誘導し、思いやりのある対応を心掛けています。

また、外来診療は、白内障・ぶどう膜炎・緑内障・糖尿病網膜症や前眼部・網脈絡膜・涙道の疾患、小児眼科や神経眼科などの専門領域で行われています。特に最近、加齢黄斑変性症の高齢患者が増加しており、硝子体への注射治療が年間1500件を超えています。この硝子体注射は、眼球へ直接、針を穿刺する処置が行われ、患者さんの恐怖心も強いので、緊張を和らげ安全に処置が実施されるよう援助しています。手術件数は、日帰り手術を含めて年間約2000

件あり、患者さんが入院や手術に関する説明を十分に理解し、安心して入院や手術が受けられるよう支援しています。

(主任看護師 乳井 律子)



リエゾンセンター事務室

研究成果から生まれた大学の「知」を産業界や地域・住民などへ還元し貢献することを目的に、2007年に学長を本部長として「知的財産本部」と「リエゾンセンター・リエゾンセンター事務室」が設置されました。当事務室では、教職員の発明に対する相談、先行技術調査、技術評価、特許出願・維持・管理、技術移転を系統的に行っており、現在までに100件を超える発明等について支援を行ってきました。また、展示会出展・マッチングイベント参加による研究成果の情報発信、行政等関係会議・研究会への参加、医工連携の推進としてのリソース提供・アピールなどの産学官連携活動、さらには橋渡し研究(translational research, TR)に関する人材育成・啓発、研究成果物の授受に係る契約(MTA)、利益相反のマネジメントなどの幅広い研究支援活動を行っています。

今後も大学の社会的使命と役割を果たすための一助となるべく活動していきたいと考えております。

(事務室長 藤原 友昭)



エフエム岩手 ラジオ番組「岩手医科大学 ～いのちから～」

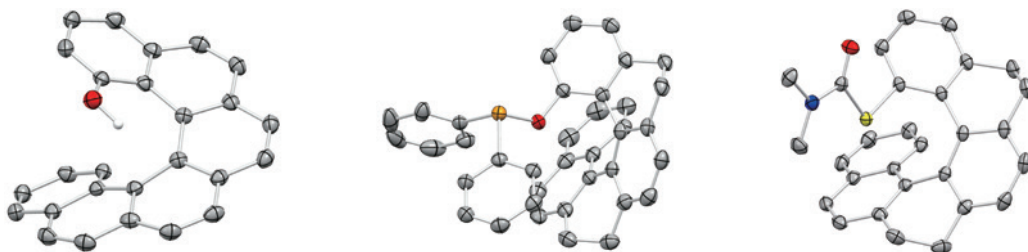
2017年11月の放送予定(毎週日曜9:30～9:55)

放送日	テーマ	出演		
11月5日(日)	アトピー性皮膚炎の最新治療(前編)	皮膚科学講座	教授	天野 博雄
11月12日(日)	アトピー性皮膚炎の最新治療(後編)	皮膚科学講座	教授	天野 博雄
11月19日(日)	大動脈疾患の外科治療	心臓血管外科学講座	教授	金 一
11月26日(日)	血管奇形専門外来について	形成外科学講座	教授	櫻庭 実

- 放送内容は都合により変更となる場合があります。
- 過去放送分は、エフエム岩手ホームページ(<http://blog.fmii.co.jp/inochikara/>)でお聴きいただけます。
- 放送に関するお問い合わせは、企画調整課(内線:7023)までご連絡ください。

薬学部有機合成化学講座（辻原哲也助教、河野富一教授）および大阪大学産業科学研究所からなる研究グループは、『ヘリセン』というらせん構造を創る機能分子（下図）を数グラムスケールで合成する実用的な手法を確立しました。今後、得られた基盤化合物を用いてらせん型不斉触媒を創製し、医薬品の効率的な合成手法への活用を目指します。

本研究成果は、独国科学誌「European Journal Organic Chemistry」および米国科学誌「Organic Letters」に掲載され、European Journal Organic Chemistry 誌では表紙に選ばれました。さらに、Organic Letters 誌に掲載された論文は、Thieme 社が発行している国際的学術抄録誌 Synfacts の 9 月号で紹介されました。



合成したらせん型化合物の X 線結晶構造

（灰色：炭素、赤色：酸素、オレンジ色：リン、青色：窒素、黄色：硫黄、白色：水素）

※詳しくは本学ホームページの最新ニュース「研究（2017/10/2）」のトピックスをご覧ください。

編集委員コーナー No.22

影山 雄太
presents



～ねこみち散歩みち～



「あれ、ボブ彦ってメスだったの？」

ボブ彦は近所を縄張りしている野良猫で、しばらく見かけないと思っていたら、突然お腹を大きくして姿を現したのです。驚く私の前で、彼女はゴロリと寝ころがって毛づくろいをはじめました。

通勤のひそかな楽しみ、猫散歩。居酒屋の並ぶ横丁や古い裏路地……猫は猫の似合う場所にいるものです。そんな癒しの“ねこみち”を求め、遠回りして歩くのが私の日課なのです。人がほとんどいない通りをゆっくり歩き、猫を見つけてはちょっかいを出しているおじさんを見かけたら、そっとしておいてくださいね。

お気に入りの“ねこみち”では、30分で20匹ちかくに会えることも。場所ですか？それは秘密です。木の花会館あたりにも猫が棲みついていますから、彼らにこっそり聞いてみるといいですよ。

“ねこみち”で出会う猫の多くは野良なので入れ替わりも激しく、ボブ彦のようにたくましく生きられるのはごく一部です。最近は増えすぎた野良猫の保護や里親探しの活動が広く知られるようになり、多くの自治体も人と動物が共生できる社会を目標に掲げるようになってきました。将来の“ねこみち”は、どんな風景になっていくのでしょうか。



～ねこみちにて～

（写真左）スナックの看板猫「のぞみ」。近所に「かなえ」と「たまえ」もいる。

（写真右）「トム夫」猫（トム夫）注意”

「ちゅ～る食べる？ボブ彦」

猫界で大ブームのおやつ、“ちゅ～る”の誘惑にあらがえる猫などいないはず。あわよくばこのまま連れ帰って……ニヤニヤしながら差し出す私を完全に無視して、ボブ彦はお腹をゆらして草むらに消えていくのでした。

（右写真）出産後しばらくして庭に顔を出した「ボブ彦」“貫禄十分”



誌面の訂正と
お詫び

大学報第 491 号の掲載内容に誤りがありましたので、次のとおり訂正の上、お詫び致します。
訂正箇所：14 ページ 矢巾キャンパスの「中尊寺ハス」が開花しました

(正) 4 代泰衡

(誤) 4 代秀衡

《岩手医科大学報編集委員》

小川 彰	佐藤 真結美
影山 雄太	菊池 初子
松政 正俊	工藤 正樹
齋野 朝幸	熊谷 佑子
藤本 康之	安保 淳一
白石 博久	佐々木 忠司
成田 欣弥	畠山 正充
遊田 由希子	佐藤 侑子
佐藤 仁	武藤 千恵子
小坂 未来	高橋 慶
藤澤 美穂	

編集後記

先日、岩手山初冠雪のニュースが届き、朝晩めっきりと冷え込むようになりました。今年は、本県への秋刀魚の水揚げが振るわず、食卓に並ぶ機会も少なかったですね。昨年に比べ白菜や長葱の相場は低下しており、これからの鍋シーズンに家計の強い味方となりそうです。

さて、本号では特集として附属病院移転事業の進捗状況について取り上げています。敷地内には店舗棟やテナント棟、保育園が隣接しており賑やかな街となりそうです。また、開院まで2年となり進む建設工事からも目が離せませんね。期待が膨らみます。

(編集委員 佐藤 侑子)

岩手医科大学報 第493号

発行年月日 平成29年10月31日

発行 学校法人岩手医科大学

編集委員長 小川 彰

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画調整課

盛岡市内丸19-1

TEL. 019-651-5111 (内線7023)

FAX. 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

盛岡市本町通2-8-7

TEL. 019-623-4256

E-mail: office@kahoku-ipm.jp

スポット薬学講座

衛生化学講座 教授 名取 泰博



腸管出血性大腸菌食中毒

今回から本講座に薬学部教員も参加することになり、第一回は衛生化学講座が担当させていただきます。

この夏も腸管出血性大腸菌O157による集団食中毒が発生し、3歳の女児が死亡したとのニュースが流れました。数ある細菌性食中毒の中でも腸管出血性大腸菌（EHEC）は、毎年、数千人が発症し、さらに今回のように溶血性尿毒症症候群（HUS）や脳症を併発して患者（特に小児）を死に至らしめることがあるため、最も警戒すべき食中毒の一つとなっています。私は臨床に詳しくありませんので、本稿では症状には深入りせずに、EHEC食中毒の現状と予防について書こうと思います。

EHECは一部の牛の腸内に常在しており、国内のある調査によれば、調べた牛の約1割が感染していたとのこと。牛ではほとんど症状が出ないため、畜産業界ではあまり問題になっておらず、また牛にいるEHECを駆逐することは容易ではなさそうなので、残念ながら、EHECによる食中毒の脅威は今後も続きそうです。

EHEC食中毒の特徴は非常に少ない菌数で起きることです。50個～100個の菌でも発症すると言われており、そのためしばしば二次感染も起きます。また原因食材として、EHECが常在する牛の肉だけでなく、大腸菌が生育するとは考えにくい生野菜の報告が多いことも、少数の菌体で発症することが原因と考えられます。

家庭でできる食中毒の予防は「つけない」「増やさない」「やっつける」が原則です。少ない菌数でも起きるEHECの場合には、特に「つけない」と「やっつける」が重要と思われます。EHECは熱に弱いので（75℃ 1分で死滅）、十分な加熱調理をすれば確実ですが、生で食べる野菜の場合は水道水による洗浄がある程度有効です。

一般にあまり意識されていませんが、蛇口から出たばかりの水道水には残留塩素による殺菌力があります。堺市の小学校で起きた給食による大規模EHEC集団食中毒の際、ある小学校が奇跡的に発症者ゼロでしたが、その理由としてカイワレ大根をしばらく水道水につけて置いたからという説があります。もちろん加熱処理ほどの殺菌力はありませんので過信は禁物ですが、もともと少ない菌数が付いただけの生野菜ならば、数分でも水道水に晒し、洗浄してから口にすることで食中毒の確率を減らすことができると思われます。尚、蛇口に塩素除去の浄水装置をつけている場合は、当然ながら殺菌力は失われます。

気休め？ そうかも知れませんが、それで気が休まる方はどうぞお試しあれ。

